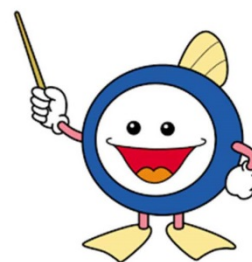


## 今後の下水道使用料について



下水道経営課

## 概要

- I 下水道使用料の原則
- II 下水道使用料の基本的な考え方
- III 市川市の現状
- IV 今後の下水道事業の見通し
- V 下水道使用料の方向性について

2

## I 下水道使用料の原則

国の財政と地方財政の基本原則を定めた法律である  
地方財政法第6条と下水道法第20条より

- ① 下水道事業の経費は、下水道使用料を充てる必要がある。
- ② 下水道使用料は、条例により使用者から徴収できる。
- ③ 下水道使用料の設定は、基本原則を遵守して設定  
しなければならない。

明確な使用料体系・公平

3

## Ⅱ 下水道使用料の基本的な考え方

《対象となる経費》

### 雨水公費・汚水私費の原則

#### 下水道事業に係る経費の負担

- 雨水処理は、**公費**（繰入金）による負担
- 汚水処理は、**私費**による負担

4の1

## Ⅱ 下水道使用料の基本的な考え方

《対象となる経費》

● 下水道使用料の対象経費

・ **維持管理費**

人件費 光熱水費 薬品費 修繕費 委託料

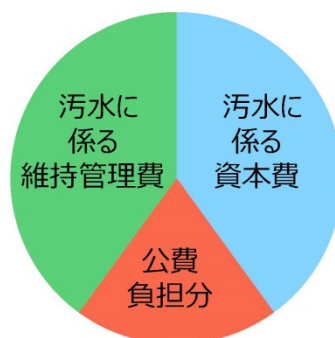
・ **資本費**

(地方公営企業法非適用事業)

地方債元利償還費

原則、使用料で回収

#### 下水道使用料の対象経費

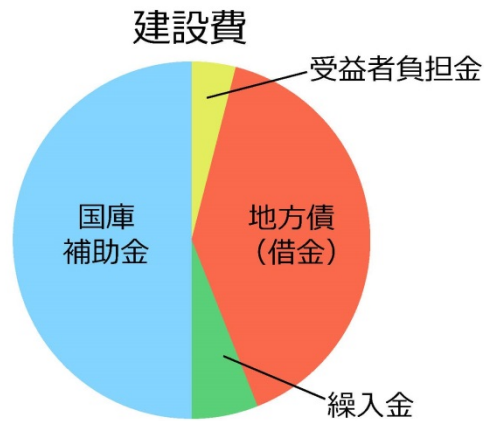


4の2

## Ⅱ 下水道使用料の基本的な考え方

### <参考> 建設費の財源構成

- 下水道建設費の財源内訳



こちらは下水道を建設する場合の財源となります。

5

## Ⅱ 下水道使用料の基本的な考え方

<国からの方針、昭和60年7月に発表された

「第5次下水道財政研究会の提言」>

**汚水処理原価** …汚水量 1 m<sup>3</sup>あたりの汚水処理費  
(維持管理費 + 資本費)

- ・能率的管理
- ・長期的に収支の均衡を図る  
(初期段階は原価が高い)

↑  
借金

### 使用料の対象

- ・汚水にかかる維持管理費は、全額対象
- ・汚水にかかる資本費は、全額対象  
しかし、範囲の限定は可

6

### Ⅲ 市川市の現状

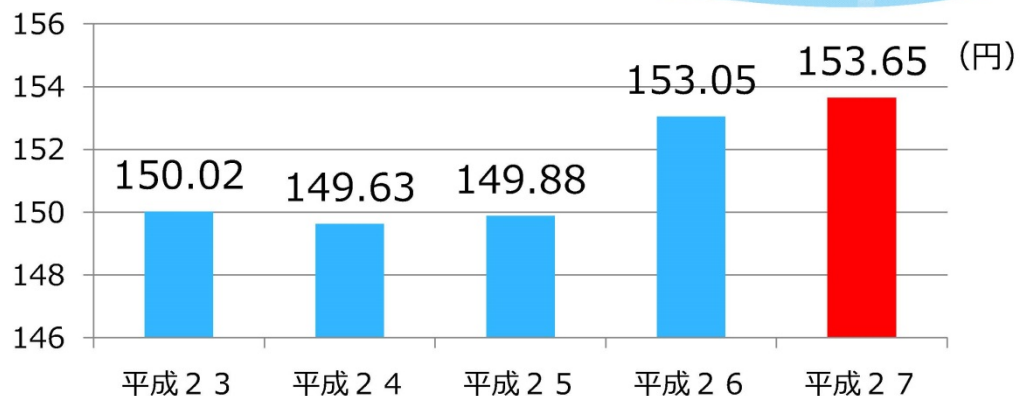
#### 経営状況について

- **使用料単価**  
使用料の対象となった有収水量（処理汚水量）1 m<sup>3</sup>当たりどれだけの収益を得ているか
- **汚水処理原価**  
有収水量1 m<sup>3</sup>あたり汚水処理にかかった費用（維持管理費＋資本費）
- **経費回収率**  
汚水処理に係る費用に対し、どれだけ使用料が回収できているか
- **資本費算入率**  
資本費（下水道事業のために借り入れた地方債）つまり借金のうち、使用料がどれだけ充当されているか

7

### Ⅲ 市川市の現状

#### 使用料単価について



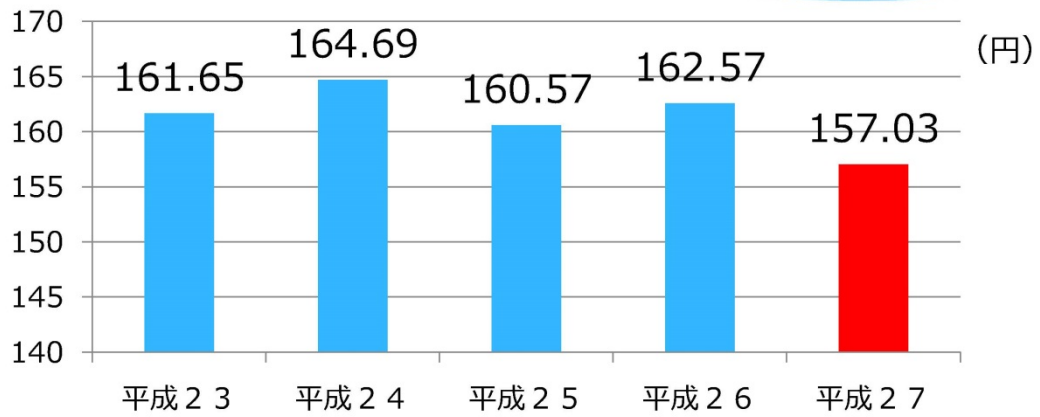
※ 使用料の対象となった処理汚水量（有収水量）1 m<sup>3</sup>当たりどれだけの収益を得ているか

$$\text{※ 使用料単価 (円)} = \frac{\text{使用料}}{\text{有収水量}}$$

8

### Ⅲ 市川市の現状

汚水処理原価について

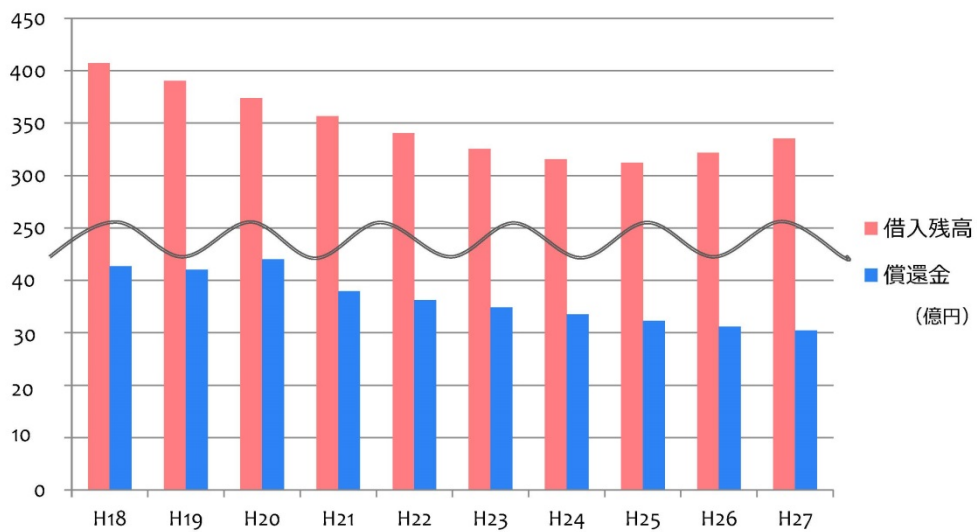


※ 有収水量 1 m<sup>3</sup>あたり汚水処理にかかった費用(維持管理費+資本費)

※ 計算方法 汚水処理原価 (円) =  $\frac{\text{汚水処理費 (公費負担分を除く)}}{\text{年間有収水量}}$

### Ⅲ 市川市の現状

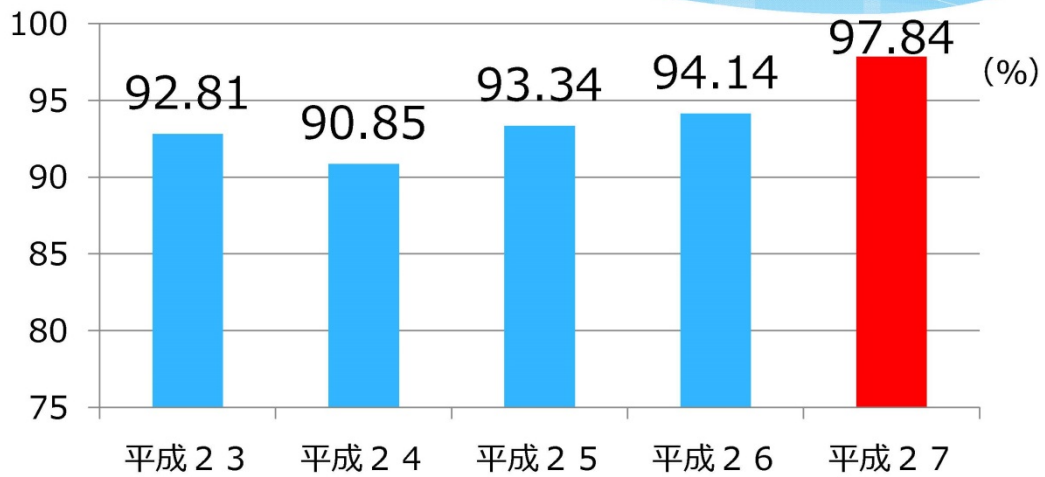
<参考> 借入残高と償還金の推移 (雨水と汚水)





### Ⅲ 市川市の現状

経費回収率について



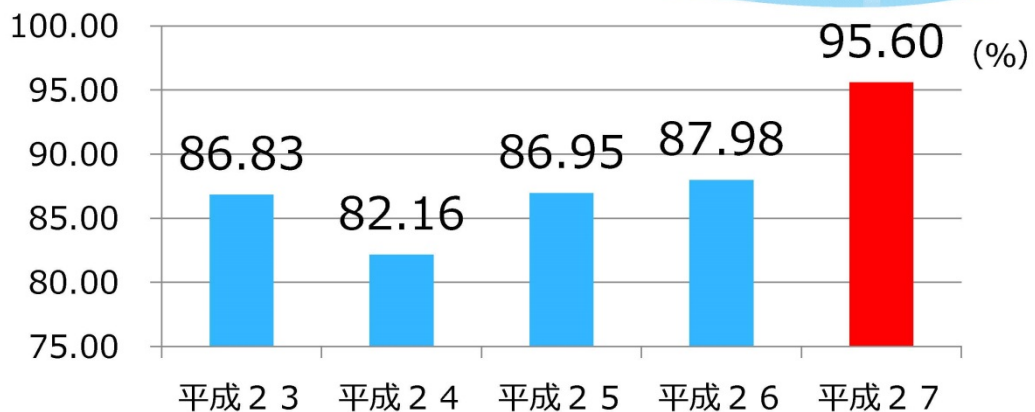
※ 汚水処理に係る費用をどの程度使用料で賄えているか

$$\text{※ 経費回収率 (\%)} = \frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費 (公費負担分を除く)}} \times 100$$

11

### Ⅲ 市川市の現状

資本費算入率について



※ 資本費（下水道事業のために借り入れた地方債）つまり借金のうち、使用料がどれだけ充当されているか

$$\text{※ 資本費算入率 (\%)} = \frac{\text{(使用料単価 - (汚水処理費) 維持管理費)}}{\text{(汚水処理費) 資本費}} \times 100$$

12

### Ⅲ 市川市の現状

現在の市川市の下水道経営状態は

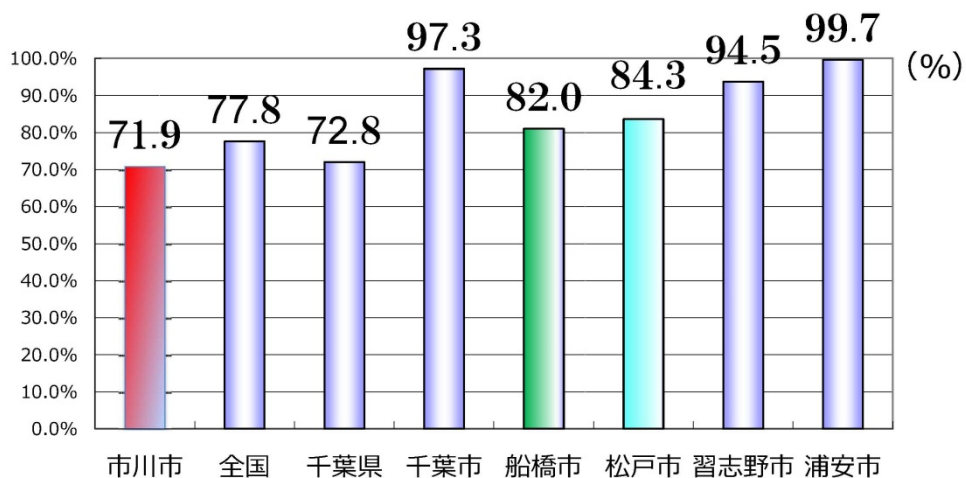
独立採算性は保たれていないが、経営は  
年々改善傾向に向っており、概ね良好な状態  
である。

13

### Ⅳ 今後の下水道事業の見通しについて

下水道普及率について

(平成28年3月末 現在)



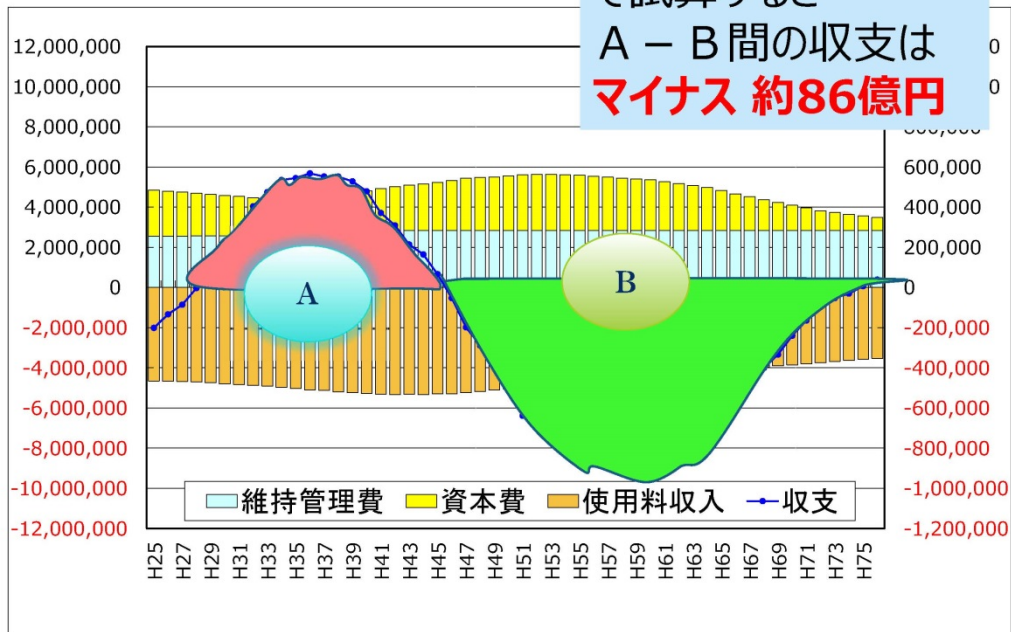
14



## IV 今後の下水道事業の見通しについて

<汚水にかかる収支見通しについて>

単価153.65円/m<sup>3</sup>  
で試算すると  
A - B間の収支は  
**マイナス 約86億円**

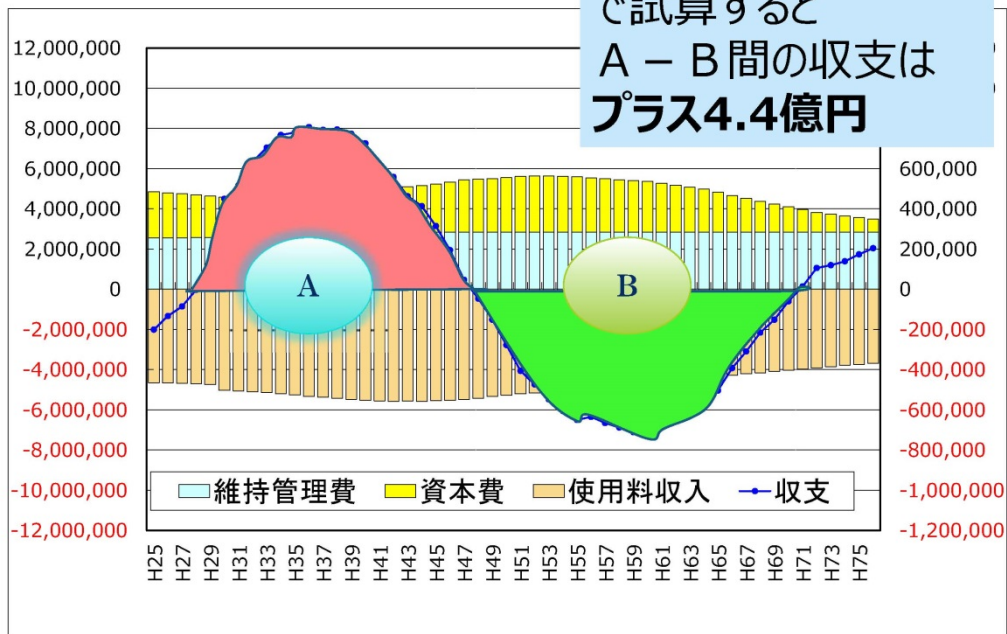


15

## IV 今後の下水道事業の見通しについて

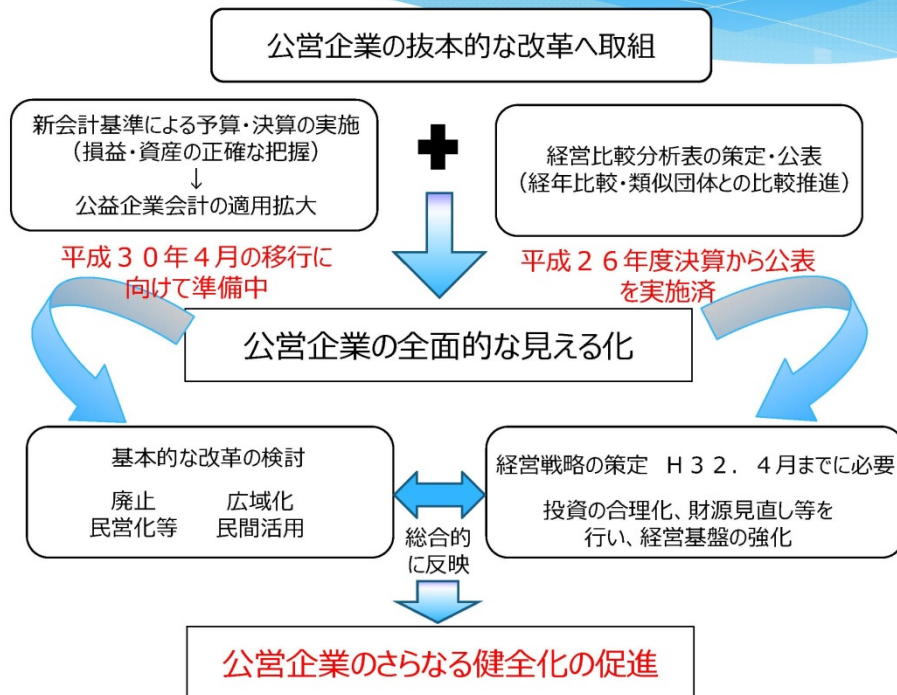
<汚水にかかる収支見通しについて>

単価160.00円/m<sup>3</sup>  
で試算すると  
A - B間の収支は  
**プラス4.4億円**



16

## IV 今後の下水道事業の見通しについて



17

## V 下水道使用料の方向性について

- 公営企業法の財務適用に向け移行段階
- 使用料対象経費への「資産維持費」の新たな位置づけ  
(中長期的な計画である経営戦略の策定をH30年から着手)

次期3カ年は、現行の料金体系を維持  
(法適用後の財務状況を検証し再検討)

18